2018年　第7号　　男女共同参画推進室・女性研究者支援センター

News Letter

ざくろの花
花言葉：再生・希望

メッセージ

河合 優年　副学長

本年4月より、男女共同参画推進室の室長に就任いたしました。教職員、院生、学生のみなさまの、より快適な学院生活を支援するべく鋭意努力をいたしてまいります。課題は沢山あるかと思いますが、よろしくお願い申し上げます。

男女共同参画推進室に関わるのは初めてでありますが、実は、推進室にはこれまでも多くの支援をいただいておりました。あまり知られていないかもしれませんが、私が所属しております臨床教育学研究科は夜間大学院で、主として社会人を対象として教育と研究活動を行っております。学ばれている方は、教育、医療、福祉、司法など多岐にわたりますが、みなさん夕方から夜遅くまで熱心に勉学に取り組んでおられます。

受講生はほとんどが女性で、職場でも現役でありますが、子育て世代としてこちらも現役の方が多くおられます。今から8～10年くらい前になりますが、小学校低学年のお子さんをお持ちの方から、子どもを預かってもらえないと大学院で学ぶことをあきらめなければならない状況になったと申し出がありました。当時は学院に子どもの一時預かりはなく、研究科教員の協力を得てなんとか対応しながら修了まで進んでいただきました。

これは多くの役割を持つ女性にとって、子育てをしながら学ぶことがいかに難しいかを示す実例であったわけですが、これを契機に研究科では、社会人の学び直しを支援するための保育室の設置を学院にお願いすることとなりました。学院内保育ルーム（ラビークラブ）を設置いただいてから、募集要項に胸を張って、「夜間の保育施設があります。子育て中の方も安心して学べます」、という一文を載せることができるようになりました。今年も、多くの院生が活用しています。

男女を問わず、学び直したい、働き続けたいと思った時に何らかの支援ができる、そんな推進室の一員になれればよいなあと思っております。

よろしくお願いいたします。

ラビークラブだより

今年も暑い夏でしたが、子供たちは暑さに負けず元気に過ごしました。小さな子どもは、お散歩やおもちゃ遊び、大きな子達は折り紙や宿題をして、ラビークラブでの時間を楽しく過ごしています。短い間にも出来るようになったことが増え、日々成長を感じます。のびのびと育っていく子どもたちの姿をうれしく思うこの頃です。

定例開催スキルアップ支援講座

- **英書精読会（毎月1回）**　初　級　「不思議の国のアリス・オリジナル」 ルイス・キャロル　著
  上　級　「人格者としての患者」 ポール・ラムジー　著
- **Skill Time in English**　英語でのプレゼンテーション練習や論文添削を行います
  国際学会や海外研修に向けて、効果的な練習ができます

※ 両講座の開催日時・申込については「女性研究者支援センター」のホームページをご覧ください

ひょうご理系女子未来塾

5/3 附属中学校・高等学校 武庫川フェスティバル 体験授業

武庫川フェスティバルの来場者を対象に「身近な物から理科を楽しもう」というテーマで出前授業を行いました。教育学科講師　藤本勇二先生の「空飛ぶタネとあそぼう」、情報メディア学科講師　和泉志穂先生とゼミ学生による「しゅわしゅわバスボムを作ってみよう」の授業が行われ、どちらも多くの小中学生で賑わいました。子ども達からは、「折り紙で色々なタネを作れて楽しかった」「化学の楽しさを知ることができた」などの感想が寄せられました。

5/27 6/10 附属中学校・高等学校 オープンスクール 体験授業

附属中学校・高等学校のオープンスクールにて、小中学生を対象に体験授業を行いました。教育学科講師　大畑幸恵先生の「おもしろ双眼鏡づくり」、食物栄養学科講師　長谷川裕紀先生の「五感の不思議を体験しよう」、食物栄養学科　植杉優一助手の「あなたの歩き方は大丈夫？」の授業が行われました。参加者からは「とても楽しかった」「歩くことや姿勢について大事なことがわかった」 などの感想が寄せられました。

7/14 オープンキャンパス 体験授業 ＆キャンパス見学

女子中学生を対象に、教育学科准教授　神原一之先生とゼミ学生による「算数遊戯へのタイムトラベル」の授業を行いました。江戸時代から伝わる数当て遊び「さっさ立て」を用いた授業では、謎解きをしながら楽しく数学を学びました。キャンパス見学会では健康科学館やMM館など、理系に関連する学科を見学しました。参加者からは「学生さん主体の体験授業が面白かった」「大学がどういう所なのかわかった」などの感想が寄せられました。

8/7~8 丹嶺学苑 サマースクール宿泊研修

昨年に続き、2回目の「サマースクール宿泊研修」を開催しました。今年は『音楽と科学が出会う夏』と題して、授業やグループワーク、大学生との交流会を行いました。1日目は甲子園会館を見学した後、丹嶺学苑に移動。食物栄養学科講師　長谷川裕紀先生による打楽器や多彩な音源を用いた授業が展開され、音楽と科学の関係性を楽しく学びました。2日目には大阪音楽大学で、音楽ホール「ザ・カレッジ・オペラハウス」や録音スタジオなど、様々な施設を見学しました。

参加した中学生からは、「音楽と科学に関する知識の幅が広がった。また新しい意欲が出てきた」「あまり数学は好きではなかったが、音楽にも関係しているので、もう少し勉強を頑張ってみようと思った」などの感想が寄せられました。

8/10 丹波市・武庫川女子大学 連携事業 日本盛見学＆オープンキャンパス

丹波市と武庫川女子大学の連携事業として、中学生対象の企業見学およびキャンパス見学を実施しました。当日は丹波市在住の女子中学生17名が参加してくれました。午前中の企業見学では日本盛株式会社で工場見学をした後、通販事業部の村上百代さんより、理系的思考を生かしたマーケティング業務についてのお話を伺いました。午後からのキャンパス見学は、中央キャンパスと上甲子園キャンパスを見学。各学科の魅力に触れながら、大学生との交流を深めました。

参加者からは「大学生と交流し、自分の未来について考えた」「また武庫川女子大学に来たい」などの感想が寄せられました。

イベント報告

スキルアップ支援講座
国際学会プレゼンテーションセミナー

2018 年 6月 23日 (土)

講師　日本大学 歯学部教授　クライブ・ラングハム　氏

昨年に続き、日本大学のクライブ・ラングハム先生をお招きし、英語プレゼンテーションの指導をしていただきました。セミナーの前半では受講生2名がプレゼンを行い、アドバイスをいただきました。後半の講義では、プレゼン資料の作成方法や、質疑応答の仕方を丁寧に説明して下さいました。参加者からは「大変わかりやすく役に立った」「例が多く、実用的だった」との声が寄せられました。

関西圏女子大学連携プロジェクト　第６回　異分野交流会

2018 年 8月 4日 (土)

神戸松蔭女子学院大学、奈良女子大学、武庫川女子大学の3女子大学の取組みとして、「第6回異分野交流会」が神戸松蔭女子学院大学で開催されました。今回は「情報」「健康」「地域」「文化」をテーマに、6組の研究者による発表が行われ、本学からは情報メディア学科の大谷光一助手 、健康運動科学研究所の北浦舞助手の2名が登壇しました。発表後のグループワークでは、活発な意見交換が行われました。

スタートアップ支援講座
統計学セミナー　初級編

2018 年 9月 6日 (木)

講師　看護学科　助教　　荒木　大治　先生

統計学の基礎を学びたい方を対象に「統計学セミナー初級編」を開催し、35名が参加しました。統計学の基礎である母集団と標本、標準誤差、中心極限定理など、「t検定」をとおして統計について掘り下げる講義をしていただきました。参加者からは、「初歩的なデータ収集から教えていただき、とてもわかりやすかった」「再び一から統計を勉強できよかった」などの感想が寄せられました。

ランチミーティング

第１回　　絵本の読み聞かせ講座（育児交流会）

2018 年 7月18日 (水)

講師　学校教育センター　山下 由佐 先生

絵本の読み聞かせに興味のある方を対象に、読み聞かせのポイントや、年齢に合った絵本の紹介をしていただきました。「しろくまちゃんのほっとけーき」「はらぺこあおむし」など、子どもたちに人気の絵本を挙げ、「子どもの五感を刺激する本」「色彩の豊かな本」「子どもの発言を促す本」など、それぞれの絵本の良さを説明していただきました。

先生は「子どもの時に読んでもらった本は、大人になっても心に残る。ぜひ子どもたちに絵本の読み聞かせをしてほしい」と語られました。

第２回　　糸魚川先生と話そう

2018 年 8月 1日 (水)

講師　学院相談役　糸魚川 直祐　先生

学院相談役の糸魚川直祐先生から、先生の専門分野であるニホンザルの研究についてお話を伺いました。当日は総勢21名が参加し、先生のお話に耳を傾けました。先生は41年間にわたって、岡山県勝山に生息するニホンザル集団の行動・生態の研究に取り組まれました。今回のミーティングでは、彼らの子育て、順位付け、血縁関係などを、当時撮影された写真を使ってわかりやすく解説していただきました。

また「女子大学における人材・研究者の育成・支援」についても述べられ、いのちの大切さと女性の育成についても語られました。参加者からは、「サルの社会も人間社会と同じで、とても興味深かった」などの感想が寄せられました。

COLUMN

「ホウセンカ」
―かゆいところに手がとどく話―

武庫川女子大学　薬学部　薬学科
名誉教授　　石黒　京子 先生

ホウセンカ(鳳仙花)は、私が痒みやアレルギーの研究にのめり込むきっかけを与えてくれた最初の植物でした。

ホウセンカは1年生の草本で、日本中で見られるポピュラーな植物ですが、ある時、徳島県でこのホウセンカの白い花びらの焼酎漬けが、蚊に刺された時の痒み止めの常備薬として愛用されているのを知りました。実際、蚊に刺されたあと、この液を塗るとほとんど瞬間的に痒みがなくなりました。

そこでこの効果を確かめるため、大量のホウセンカを栽培し、白花を採取しました。これを35%エタノール（焼酎と同濃度）で抽出してエキスを作り、動物実験に取り組みました。

痒みに対する効果は、痒みを誘引する物質をマウスに注射し、体を掻く回数で調べました。マウスに痒み誘引物質を注射すると体を掻く回数が10倍以上に増加します。ところがホウセンカを前もって経口投与したマウスでは、掻く回数が3分の1に抑えられました。さらにホウセンカは中枢系に働かなかったことから、眠くならない抗痒み薬として期待できます。

一方、痒みとアレルギーは密接に関連しています。ホウセンカにアレルギー抑制作用を期待して研究を開始しました。

卵白に含まれるたんぱく質をマウスに注射した後、9日後、再度注射すると急激なI型アレルギー反応（アナフィラキシー反応）を起こし、ほぼ100％のマウスがショック死します。ところが、ホウセンカのエキスを前もって経口投与した後、たんぱく質を注射したマウスは全く死ななかったのです。ホウセンカは劇的にアナフィラキシーを抑制したのです。

ホウセンカの焼酎漬けの作り方

ホウセンカの花は白いものがよい。ホウセンカの花びらを密閉できる広口瓶などに詰め込まないように軽く入れ、そこに焼酎（35度のもの）を注ぐ。花自体がかなりかさがあるので、50mlの焼酎に花が10個ぐらいが目安だが、多いほどよく効く。2～3日ほどでできあがる。

後に、痒みやアレルギーを抑制する物質やそれらの作用メカニズム、さらにホウセンカの自己免疫疾患抑制作用など多様な効果についても明らかにし、それらを総説[1)]としてまとめています。

一方、これらの抗アレルギー作用の追求の過程で、新しいアレルギー評価法の開発も行い、アレルギーを抑制する多くの植物の発見にもつながりました。

新しいヘルスケア素材としての可能性を秘めたホウセンカですが、ともあれ、蚊に刺されたときには間違いなく効きます。

手作りして効果を試してみられませんか。

1)薬用食品の開発II　−薬用・有用植物の機能性食品素材への応用−「ホウセンカの多様な生物活性と成分」，シーエムシー出版，2012，p.193-204

募集しています

ひょうご理系女子未来塾　出前授業講師

中学生・高校生対象の出前授業の講師になってくださる先生・大学院生を募集しています。女子中高生の理系分野への興味・関心を高めるために実施しています。これまでに多くの先生が兵庫県下の中学校・高等学校に赴き、講義を行っています。興味のある方はお気軽にお問い合わせください。

ランチミーティング講師

男女共同参画推進室では、幅広いテーマでランチミーティングを行っています。講師になってくださる先生を募集していますので、お気軽にお問い合わせください。

学校法人武庫川学院　武庫川女子大学
〒663-8558　兵庫県西宮市池開町6-46　本館4階407号室

男女共同参画推進室
TEL：0798-45-3542　FAX：0798-45-3535
Mail：gsankaku@mukogawa-u.ac.jp

女性研究者支援センター
TEL：0798-45-3737　FAX：0798-45-3535
Mail：female_r@mukogawa-u.ac.jp
URL：http://www.mukogawa-u.ac.jp/~female_r